

## 令和7年度福岡市子どもプラザ事業運営団体選考に係る協議会 議事要旨（西区）

- 【開催日時】 令和7年11月12日（水） 15：15～17：00  
【場所】 アクロス福岡 601 会議室  
【議題】 1 応募団体プレゼンテーション・質疑応答  
2 応募内容の審査・評価、意見交換  
【出席者】 中村委員長、川上委員、植山委員、清成委員

### 西区姪浜子どもプラザの選考

#### （応募団体C）

委員：「スタッフが特定の利用者に対して必要以上に親しくしない」との記載について。どのように節度を保つのか。

応募団体：特定の利用者と親しくすると、新規の利用者から「スタッフに相談しにくかった」といったご意見をいただくこともある。初めての方も常連の方にも公平に接し、皆様にとって気持ちの良い環境をつくるようにしている。スタッフとしてそのような視点をもって業務に当たるよう、スタッフ全体で共通認識を持っている。

委員：自分の家や、実家のように感じてもらいたいというプラザもある中で、冷たく感じられることもあるのでは。団体の特性として、おじいちゃんおばあちゃんを求めてくる利用者に対応できる特徴があると思うが。

応募団体：公共業務の受託者として、ある程度の節度も必要だと考えている。一步引いて利用者同士で過ごしていただけるスペースづくりを意識している。

委員：運営において、困ったことはあるか。

応募団体：スマホは利用禁止と説明しているが、操作したり連絡で使う方もいる。ずっと触っていたり写真を撮るような方には、スタッフが声掛けしている。

閉館時間が近くなると帰りたくないということももいる。その時は、一緒に片付けるようにしたり、色紙を一枚渡して「これで何か作って来てね、また今度見せてね」と声を掛け、納得してお帰りいただいている。

委員：利用者への検温や、布製のおもちゃの消毒はどうしているのか。

応募団体：検温は今年の3月まではしていたが、現在は行っていない。「他の子どもプラザや病院でも行っていない」と利用者からご意見いただいた。実施については、区役所と相談して検討したい。

布製のおもちゃは、こどもが舐めたら引き上げて、洗濯し天日干しをしている。布でない場合は、アルコールで消毒している。

委員：障がいのある子どもの利用はあるか。人権についての研修はされているか。

応募団体：気になる子がいれば声をかけて、保護者が悩んでいるようであれば、専門機関や子育て支援コンシェルジュに繋げるなどしている。

新規スタッフにはコンプライアンス研修を行っており、その中で多様な利用者への配慮として外部講師を招いている。休館日にミーティングを行っているので、その時に必要なものを取り込んで利用者の多様性についてお伝えしたい。

委員：外国人の利用は増えているか。外国語を話せるスタッフはいるのか。

応募団体：外国人の利用は増えており、英語版のパンフレットを渡している。外国語を話せるスタッフはいないため、利用者の翻訳アプリを活用している。

委員：「子育て交流サロンの情報交換会に参加させる」とあるが、どのように地域の情報収集をされているのか。

応募団体：派遣相談で来る団体の方や、区役所の研修に公民館やサロンの方が参加するので、ここで情報収集を行っている。

## **西区橋本子どもプラザの選考**

### **(応募団体D)**

委員：責任者は、普段は子どもプラザにはいないのか。

応募団体：普段は幼稚園に常駐しているが、すぐにサポートできる距離に園があるため、相談など何かあればすぐにかけている。園にも子どもプラザ担当の職員を配置しフォローしている。

委員：運営において、困ったことはあるか。

応募団体：利用者が多くなっている。人数制限ができない中で、感染症対策や安全面に配慮しながらの運営が難しいと感じている。

委員：検温はしているか。

応募団体：検温はしていない。様子が気になるお子様には声掛けしたりしている。

委員：不審者対策はどのように行っているのか。

応募団体：商業施設の防災センター直通の番号に連絡することになっている。

委員：買い物ついでの利用が多いのか。

応募団体：買い物ついでの利用者が多い。両親と子どもが来館して、父親と子どもを残して母親が買い物に行き、後で交代してまた利用される場合も多い。

委員：保護者同士の関わりを重視する子どもプラザとしてはやりにくいのでは。

応募団体：リピーターの方は、講座やイベントを目当てに利用いただいたり、幼稚園帰りに寄られる方もいる。お子様を通じて母親同士でお話していることも多い。スタッフが間をもって

つなげたりもする。

委員：初めての方への説明はどうしているのか。

応募団体：初めての方用の説明プリントを使って一通り説明している。新規の利用者も多い。

委員：外国人の方への対応は。

応募団体：基本的な対応は変わらない。これまで困ることはなかったが、仮に対応できない場合あれば、連携先の園から英語が話せる職員を派遣することも可能。

委員：ボランティアスタッフについて。どういう方が来られているのか。

応募団体：今はいない状況。近々、ボランティア養成講座を開催予定。保護者とお話してもらったり、絵本を読んでもらったりといった役割をお任せしたい。

委員：商業施設内の遊び場を活用したりするのか。

応募団体：対象年齢が異なるため、利用していない。

委員：企画提案書に「低年齢向けのおもちゃやイベントを増やす予定」とあるが、何かアイデアがあるか。

応募団体：園の保護者は、リトミック、英語などの関心が高い。離乳食に困っている方も多いため、そういった内容の相談会なども考えている。

委員：情報収集は幼稚園などから行うのか。

応募団体：幼稚園・保育園の保護者など。園が母体なので、離乳食の話や保育士の派遣回数を増やしていけたら良いと思っている。

委員：「壁面制作を毎月実施」とあるが、どのように行っているのか。

応募団体：翌月の季節やイベントにちなんだ壁面制作を、こどもと一緒に制作している。

委員：乳幼児の応急手当訓練について。講師はどのような方をお願いしたのか。

応募団体：百道にある防災センターに依頼。救命救急士の方が参加した。

## 総評

### 応募団体Cに関して

- ・ 祖父母世代として関わることができているのは強みと言える。一方で、様々な関わりのためには、幅広い年齢層のスタッフがいることが望ましい。
- ・ おもちゃは大事な視点の一つであり、可能となる遊びや活動が変わるため、おもちゃの選定にも留意することや、広い場所を活かした今後の活動に期待したい。
- ・ 利用者同士をつなぐ関わりや、外国人への対応、感染症対策についてさらに充実させていくことが望ましい。
- ・ 他区・他市の子どもプラザから学ぶ視点を積極的に持ち、運営に活かしていくことを期待したい。

### 応募団体Dに関して

- ・ 限られたスペースの中で工夫をしながら、運営できている。経営母体の幼稚園と連携し、スタッフを柔軟に配置したり、幼稚園のノウハウを活かした対応ができている。
- ・ プラザ長が責任者として現場にいない点は懸念があり、現場責任者の配置など体制の見直しを検討されたい。
- ・ 利用者が多いため、安全面への配慮が必要な点や、商業施設ならではの利用者層に対するアプローチについて工夫し、運営に活かせる点を検討していくことが望ましい。
- ・ 他区・他市の子どもプラザから学ぶ視点を積極的に持ち、運営に活かしていくことを期待したい。